食生活を考える
～子どもたちのより良い食習慣づくり～

Ⅰ主題設定の理由

学習指導要領が改訂され,「学校における食育の推進」が位置づけられ,食に関する指導の充実は今や国民的課題となっている。現在の子どもたちを取り巻く食環境は,手軽に好きな食べ物を手にすることができる豊かな環境ではあるが,偏った栄養摂取などの食生活の乱れや,肥満・痩身傾向が見られるなど,食に関する健康問題が吃緊の課題とされている。「食」は子どもたちの健やかな成長を支える基礎となる重要な役割を担っている。

食に関する授業実践をとおして,子どもたちが食に対する興味関心や食べ物・栄養についての知識を高めることで,子どもたち自らが,より良い食習慣を身につけ,健やかな成長を支えることができたらと考え,本テーマを設定した。

Ⅱ研究の内容

1ティームティーチングによる授業研究

（1）小学校第6学年家庭科「くふうしよう　楽しい食事　オリジナル弁当を作ろう！」

授業者：三富小学校　八巻恵子，五味秋津

身近な食品でバランスの良い献立を考えお弁当を作る,家庭科における食教育の実践だった。班ごとにお弁当のメニューを考えバランスがとれているかを検証・発表しあう授業であった。子ども達はお弁当を絵に描き色塗りをしてみんなで協力しわかりやすく発表をした。自分たちで考えたお弁当を作って食べるという最終目標に向かっての授業であったので,子どもたちの学習意欲を高め楽しそうに授業に望んでいた。栄養教諭が専門的な知識を生かして関わることにより,学習内容が深まった。今回は単元（全１２時間）を通して関わることができたのでより効果的であった。“くふうして　お弁当を作る”が抽象的で主菜・副菜のバランスを,子どもたちにどう教えていくかが課題となる。学級通信でこれまでの家庭科学習の様子を伝え,考えた献立を家庭に持ち帰り調理方法や食材などのアドバイスをもらうという活動を取り入れ，家庭との連携を図る工夫がされていた。

（2）小学校第3学年学級活動「給食の先生や調理員さんに感謝の心をもとう」

授業者：塩山南小学校　筒井ひさ美，小野明子

給食室は近くにあっても食材の流通・処理方法・衛生面など調理員の仕事の内容や大変なことなどを日頃目にする機会がないため,日常は意識しないで,給食を食べている子ども達が多い。今回の授業は,給食室の様子をスライドで見せ、クイズを出しながら進めた楽しい授業であった。一人一人が集中し,進んで発言するなど,学習規律もしっかりと出来ていた。また,学級担任と栄養職員の役割分担や打ち合わせが出来ていて,流れるような授業の展開であった。このように学校生活の中で見えにくい部分に焦点をあてた授業はとても意義のあるものであり,他の学

校でも実践に繋げていき感謝の心を育んでいきたい。

2 学習会　「そば打ち体験講座」

私たちが生活している山梨県は昔から粉食文化が根付いている。ほうとうやうどん・そばなどは毎晩のように夕食として出されていた。そば打ち体験をすることによりそばの香りや打ち方・茹で方など学習することができた。今回の体験をとおして学習指導の幅が広がり,今後にも生かせる内容であった。

Ⅲ成果と課題

1 成果

・管理職・学級担任・栄養教諭・栄養職員のそれぞれの視点をもって意見を交わすことができ,組織として充実した研究ができた。

・研究テーマがはっきりしていたので,目的をもって研究をすすめることができた。

・低学年・高学年の2グループで研究したことにより,発達段階の課題にそって深くテーマに,せまることができた。

・食教育は担任が中心になって進めていかなければなかなか浸透していかない。この部会に担任の先生方が増え,授業としての学習の進め方をいろいろな形で知ることができ,食教育の充実ができたのではないか。

・クイズ・スライド・ビデオ・実物などの教材教具の活用方法が参考になった。

・家庭科においても学活でも栄養教諭・栄養職員の専門性を生かしたT・Tの授業が有効だった。

2 課題

・各校の教育課程に食教育を授業としてどのように位置づけていくか。

・栄養教職員は兼務が多く,学級担任との打ち合わせの時間確保が難しい。

・食教育は特に家庭との連携が効果的であり,学校での学習を家庭にどう伝えるか。

・教材教具の紹介は有意義だった。それらの教材教具を共有し,各学校で活用できるシステムがあると実践がしやすくなり食教育の広がりにつながる。

・他校の実践や授業研究を各学校の実践に結びつけていく。

・給食の時間だけでなく,計画的に「食」をとおして「命」を守ることの大切さを伝えていきたい。

3 来年度に向けて

・一人一実践は,食教育を進めていくきっかけになるので実行できたらよい。

・家庭と連携した授業の組み立て方など工夫が必要。

・2グループの研究方法も良いが栄養教職員の人数が少ないため,地区にわかれての研究もよいのでは。また,グループ間の情報交換や日頃の指導の様子などの実践報告の時間がとれたら良い。

・実践の広がりを思うといろいろな学校で実践できたらと考える。

・授業者の負担にならないよう,教材教具の作成をみんなで学びながら作れたらと思う。

・食教育は学校全体で取り組むことが効果的なので，今後も管理職や教諭，栄養教職員とともに研究を深めていきたい。　（部長　風間美智子）